

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：めーぷる保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：関山 隆一	定員（利用人数）： 58名
所在地：〒224-0021 横浜市都筑区北山田2-2-29	
TEL：045-342-8389	ホームページ：https://www.maplecoco.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2020年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 8名
専門職員	園長 1名 保育士 13名
	栄養士 1名 調理員 1名
施設・設備 の概要	事務室：1室 みんなのトイレ：1個
	0～5歳児部屋：各1室(計6室) 2から5歳児トイレ：1個
	調理室：1室

③理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは「子どもを人間としてみる」ことを保育の哲学にしています。 人間が成長していく上でもっとも重要な時期は乳幼児時期です。未知なる子どもたちの世界を共に見ようとし、日々丁寧な保育をおこなっています。 ・子どもは「生きようとする資質」を持っています。 その自ら生きようとするに対して、私たち保育者は、その資質を最大限引き出すべく日々の保育を考え、子ども達がケアアケアされる世界を私たちはケアしています。 ・自然は子どもたちにとって最大の教材です。 子どもたちは自然を媒介し、成長・発達していきます。私たちは「森のようちえん」という実践を通して、子どもたちを信じ、見守ることを大事にしています。 <p>【保育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Sharing Nature 自然を共に分かちあおう！ ～一緒に自然を感じ、共感することを大切にします～ 2.Play a lot とことん遊びつくそう！ ～遊びの中で様々な体験をしながら育つことを大切にします～ 3.Family Growing Together 子どもも大人もみんな一緒に育ち合いましょう！ ～子どもだけでなく保護者と保育者も、みんなで子育てを楽しみながら育ち合うことを大切にします～

④施設・事業所の特徴的な取組

【朝の会などを通して、自発的で対話的な深い学びが実践されています】

園では、その日の活動について、子どもたち同士で話し合い、活動内容や場所などを決めています。保育者が「昨日は何が楽しかった？」などと尋ねると、子どもたちから楽しかったことや、またやりたいことなどの意見が出てきます。保育者は、一つひとつの子どもたちの意見に十分に耳を傾け、また子どもたちに返していきます。このようなやり取りの中で、活動内容や活動場所が徐々に決まっていきます。子どもたち同士の中で折り合いがつかない場合は、他のクラスの職員と連携し、2つの活動を行ったり、また別の日に行くことや少し遊んで違う場所に行くことを提案するなど、一人ひとりの子どもたちが納得してから活動が始まります。

戸外先でも、保育者は子どもたちの「～したい」という自発性を大切に、対話を通して、活動内容が展開されていきます。このような取り組みの中で、日々子どもたちの自発的で対話的な深い学びが繰り返されています。

【ファミリーイベント等、保護者と子どもたちの成長を共有できる機会が設けられています】

園では在園児の保護者を対象とした「ぷるぷるめーぷる」と呼ばれるファミリーイベントが年4回程度行われています。ぷるぷるめーぷるでは、普段子どもたちが遊んでいる場所で一緒に散歩をしたり、クリーンアップ活動として公園のゴミ拾いなどを行ったりしています。また、綱引きやリレー、山登りなども行い、保護者同士のつながりや職員とのつながりを深める機会となっています。

さらに、保護者同士が集まる機会が望まれていることを把握し、保育者も参加の「パパ会」「ママ会」が実施されました。日頃の保育でも保護者の保育参加が随時可能となっており、子どもたちと一緒に散歩に出かけ、昼食を食べるなどの機会があります。参加後に保護者に感想を伺うことで、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援につなげています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年 6月 4日（契約日） ～ 令和3年 12月 1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【日々、里山をフィールドとして五感を十分に感じる戸外活動が繰り返し広げられています】

園では、「森のようちえん」という保育スタイルに取り組み、近隣の里山をフィールドとして、子どもたちが自然の中で遊び、さまざまな体験を通して、「生きる力（考える力・行動する力・コミュニケーション力）」を身につけられるようにすることを大事にする保育スタイルが実践されています。そのため、晴れの日も雨の日も、子どもが主役になって外で遊びます。

年間保育計画には「期待される保育資源」の項目が設けられたたんぽぽやどんぐり、キンモクセイやつばきなど季節に応じた植物や、おたまじゃくしやザリガニ、コオロギやカエルなどの生き物等が記載され、季節で移り変わる自然をフィールドとして、子ども一人ひとりの興味や自発性に応じて活動が展開し、豊かな経験ができるよう配慮されています。また、子どもたちが十分に遊び込めるよう、「おむすびの日」を設け、戸外でおむすびを食べ、朝から午後のおやつまで十分に遊び込める時間を設けています。

このような、自然の中での五感を使った日々の体験を通して、「不思議だなあと感じる心」（センス・オブ・ワンダー）も育まれています。保育者は子どもたちの育つ力を信じて、待ち、見守り、子どもたちの主体性を最大限に尊重することを大切にしています。

【各種会議が定期的実施され、事例検討等を通して日々の保育実践を振り返る体制があります】

園では、各クラスの子どもたちの様子について話し合う「クラスミーティング」、園全体で子どもたちの様子の共有や事例検討等を行う「めーぷるミーティング」が定期的開催されています。また法人全体での研修会が年に3回実施され、その中では、園や職種を越えたグループワーク等を行い、日々の保育実践を振り返り質の向上につなげています。また「リーダーミーティング」と呼ばれる、系列園のクラスリーダーが集い、保育の質の向上のためのグループワークを行うミーティングや、「FTミーティング」と呼ばれる、常勤職員を対象としたミーティング等も実施され、一人ひとりの職員に応じたグループワークや事例検討等で日々の保育実践を振り返る機会が設けられています。

また、日頃から、園長と職員は具体的な事例をもとに、一人ひとりの職員の良さを大切にしながら、振り返りの機会を設けることで、さらなる質の高い保育実践につなげる取り組みを実施しています。

◇改善を求められる点

【園の方針や具体的な保育実践について、日々のコミュニケーションの中で保護者とのさらなる共有が期待されます】

園では入園説明会を毎月開催し、理事長、施設長、事務局が園の方針や具体的な保育実践、保育者の関わり等で大切にしていることなどを説明しています。また、進級する際にも改めて、園が大切にしている「森のようちえん」という保育スタイル等について説明しています。さらに、随時保育参加が可能な環境を設けるとともに、キッズファームでは月1回、畑の日を設け保護者も参加できる機会を作っています。また、年4回程度の在園児の親子が参加するファミリーイベントも開催しています。

今後は、保護者との日々のコミュニケーションの中で、理念に裏付けられた具体的な保育実践についてのさらなる共有が行われ、法人の理念の一つである、「Family Growing Together 子どもも大人もみんな一緒に育ち合いましょ！」が達成されていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、改善できるところは改善をし、また私たちの想いを伝えていく場面を増やし、保護者の理解を深めていきたいと思えます。

横浜保育室より認可保育所へ移行をし、初めての第三者評価受審でしたが、私たちの事業を振り返る良い機会となりました。高評価をいただいたところは、しっかりと自覚をもって今後も活かしていきたいと思えます。

アンケートにご協力いただきました保護者の方々、私たちが大切にしている事を知ろうとしてくださった評価機関の方に感謝申し上げます。いただきました前向きなことばを今後の活力にしていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり